



第100号 記念号

発行 大刀洗町青少年育成町民会議
 TEL 77-2670 FAX 77-2720
 編集 広報委員会



平成22年度 少年の主張大会発表者と内容

学 校	学年	氏 名	内 容	氏 名	内 容
大堰 小学校	6年	秋吉 魁人	みんなの思い	野瀬 桃佳	すべてに ありがとう
本郷 小学校	6年	磯川 雄大	高杉晋作に学ぶ生き方	山本 優香	世の中を明るくする言葉
大刀洗小学校	6年	佐藤 俊	あつたか言葉とあつたか態度	岡嶋 真央	平和な世界へ
菊池 小学校	6年	安丸 晴輝	犯罪のない社会をめざして	安丸 綾香	私の夢
大刀洗中学校	1年	鐘江 未羽	会いたい		
	2年	中島みずき	中2の親子関係		
	3年	平田 真優	今を大切に		

「会長挨拶」

大刀洗町青少年育成町民会議
 会長 安丸 国勝

本日、少年の主張大会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昭和六十年に大刀洗町青少年育成町民会議が発足し、今年で二十五周年を迎えます。

現在、当町では「地域づくり」、「人づくり」の一環として、九月より町政懇談会を開催し町民の皆様のご意見を拝聴して参っております。各校区におきましては、青少年健全育成のための活動が熱心に取り組まれているところでございます。これもひとえに関係者の皆様のご理解とご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、この少年の主張大会は、これから大きく成長され、我がふる里の未来を創っていく少年の皆様が、日常生活での様々な出会いや、体験を通じて感じたこと、その思いを発表することにより、自分の考えを多くの方々に伝える力を身につけていただくよう開催しているものです。

発表者の皆様は限られた時間のなかで、自分の意見をまとめて発表することになりますが、どうか自信を持ち、胸を張って元気よく発表していただきたいと想います。そしてこの大会がすばらしい思い出と良い経験になりますよう祈念いたします。

そして、私たち大人も、子どもたちの意見に十分に耳を傾け、考え方や気持ちをしつかりと受け止めていきたいと思えます。

最後になりましたが、本大会にあたりご尽力賜りました学校並びに関係者の皆様にご心からお礼申し上げます、挨拶いたします。

「主張大会を聴いて」

大堰校区 中島 秀樹

初めて、この主張大会を聴かせてもらいました。十人の小・中学生全ての生徒達が、大勢の人達の前で、自分の主張を堂々と発表している姿を見て、非常に驚き、また、感動的でした。それに、主張している内容もとてもすばらしく、非常に感性が豊かだと感じました。

良く出て、はっきりと発表している姿は、とても立派でした。このような大会に我娘を出場させていただき、親として非常に感謝しています。娘も、とても自信がついたと思います。出場された生徒全員が、今回の経験を社会で十分に活かしてくれる事を願っています。

「主張大会を聴いて」

大刀洗校区 岡嶋 修

小学生・中学生共に自分の体験した事、出逢った人々、感じた事、皆それぞれの視点の中で物事をとらえ分かつたりやすく主張されてあつたのではと感心しました。小学生は相手の立場を感じられたり、自分の過ちに気付

娘もすばらしい機会を与えて頂き主張させてもらいました。家庭の中で見る娘の姿とは違って、凛とした姿に驚きを隠せませんでした。娘が今何を思い感じているのか少し見えた様な気がしました。皆さん緊張された半日を過ごされたかと思いますがこの主張が自信へとつながり、物事を広い視野の中でとらえられる人であつて欲しいと思っています。

「私からのメッセージ」を聴いて

少年の主張大会

去る十一月十三日のドリムまつりに行われた「少年の主張大会」を聴かせて頂きました。大刀洗町の小学校四校の六年生と中学校の生徒さんの発表に、とても感心しました。たくさん人の見守る中、堂々とした態度で、しっかりと意見やはっきりとした口調で

発表する生徒さんに感動しました。発表では、平和への願い、将来の夢、親への感謝の気持ち、犯罪のない社会への思い、しっかりと生きた生き方など、それぞれにテーマは違っても素直な気持ちで主張されていると思いました。

私は、はじめて主張大会を聴きに行きました。みなさんの堂々と主張される姿は、小・中学生とは思えないくらいでした。この主張大会に出場されたことは、誰にでも出来ない素晴らしい経験になった

改めて考えさせられました。また、我が子の主張は、「犯罪のない社会をめざして」と題して、社会の色々な犯罪を通し、感じることを感じたことを発表していましたが、最も大切なのは「自分の意志」と言っていました。この気持ちを忘れず、「強い意志」で、また、人に対しての心配り、気配を忘れずに成長してほしいと願います。

「主張大会を聴いて」

本郷校区 匿名

発表を聴いて、若干年を重ね大人になつたつもりでいましたが、「ありがとう。」や「ごめんなさい。」と素直に言えているだろうか、人に感謝する心を忘れてはいないだろうか、自分自身を振り返るよい機会になったと思います。みなさん本当にすばらしい発表でした。

「はじめての主張大会」

菊池校区 安丸 元茂

私は、はじめて主張大会を聴きに行きました。みなさんの堂々と主張される姿は、小・中学生とは思えないくらいでした。この主張大会に出場されたことは、誰にでも出来ない素晴らしい経験になった

今回、主張されたみなさん、素晴らしい話を「ありがとう」ございました。これからも、その素直な心で成長してください。



「みんなの思い」

大堰小学校 六年 秋吉 魁人

「強くなりたい」

ぼくが、今一番強く思っていることだ。ぼくが一年生のころ、ぼくのお兄ちゃんとお姉ちゃんが剣道をしていた。

「わあ、お兄ちゃん、強いなあ。」、「お姉ちゃん、かっこいい。」だから、ぼくは心のなかで、「ぼくも、お兄ちゃん、お姉ちゃんみたいに強くなれる。」

「大会では、優勝だ。」なんて簡単に思っていた。だから、母にすがる思いで、剣道をはじめたいことを伝え、ぼくの剣道が始まった。

しかし、剣道をそんな気持ちで始めたことを後悔する毎日が続いた。防具を付け始めると、防具は重く動きづらい。そして、今までしていた素振りも、防具をつけてると満足にできない。防具をつけてからの素振りも、腕がいたくなる。一生懸命しているつもりでも、「もつと、手をのばせ。」「もつと、声を出せ。だからだするな。」という厳しい声が体育館いっぱい響く。ぼくが思っていたより、ずつとかこくなものだった。練習しては泣き、また練習しては泣く。そんな毎日の繰り返し。ぼくは、その時、なんでもこんなスポーツを選んだのだろう。サッカーやスイミングなどにすればよかったと思いつける日々だった。

ぼくは、「剣道は、やりたくない。」

と、母に毎日のように伝えた。しかし、母は「あんたが、自分でやりたいと決めたことやろ。」と、ぼくが母にすがるように頼んだ日のことを振り返って言う。

ぼくは、その日のことを思い出すと、自分で言い出したことだと、どこかあきらめ、自分で言い出したことを後悔していた。

そんな気持ちで、剣道の練習を続けていたある日の夜。ゆかに、一つの封筒が落ちていた。その封筒には、「大堰剣心会」とかかれ、毎月のはんこがおされていた。ぼくは、今まで剣道を習うことにお金がかかっていることを知らなかった。父や母は、ぼくが「剣道をやりたい。」と言いつ出した時、そして、「剣道はやりたくない。」と言いつ出した時も、一度もお金のことをぼくに話さなかった。ぼくの気持ちだけを聞いてくれていた。母は、「あんたが、自分でやりたいと言いつ出した時の気持ちを、いつも思い起こさせてくれた。」

ぼくは、とても恥ずかしい気持ちでいっぱいになった。ぼくは、兄や姉を見て、ぼくもすぐに強くなれると思いつ、始めた剣道。そして、きつくなると「やめたい」

と言いつ出す自分。しかし、ぼくが、剣道が続けるために、ずつと支えてくれた父、母。そんな父と母の気持ちをふみにじるようなことを、自分はしていたことに気づかされた。試合になると、早く終わらないかなと思いつていた自分。とても小さく、とても恥ずかしく思えた。

今、ぼくは、剣道を六年間続けている。もちろん、ぼくがキャプテンだ。「がんばれ、がんばれ、がんばれ。」



「すべてにありがとう」

大堰小学校 六年 野瀬 桃佳

「ありがとう。」

この言葉を口にするのは、難しい。たった一言なのに、すぐに言えない。それは、自分の心の中の気持ちを言葉で伝えようとしなからだ。

このことを、深く考えさせられる出来事があった。

私の机の前を通り過ぎていく友達。ふと私の机に消しゴムをおいてくれた。私は、自分が消しゴムを落としていたことに気づかず、友達が拾って机の上に置いていったのだ。その一瞬の出来事に、私は「ありがとう。」の言葉が、すぐに出てこなかった。ありがとうの気持ちを伝えたいのに、すぐに言葉が出てこない。

伝えることができなかった自分。「ありがとう。」が言えなかった自分に、モヤモヤする。拾ってくれた友達にかけよ

ばれ、キャプテン。」と背中をたたいて励ましてくれる母。「優勝カップをさわらせてくれ。」と、気合いを入れてくれる父。今からでも遅くはない。もう一度、心を入れかえて、小学校最後の剣道をやってみようと思いついた。

一本一本の素振りに、父・母、そして、ぼくを支えてくれるみんなの思いをこめて。

ていき、「ありがとう。」と、一言伝えるだけなのに、素直に言葉にすることができない。モヤモヤとしている自分を心配してくれた友達が、今度は、「どうしたの。」

と、声をかけてくれた。私は、「ううん。何でもない。」と言いつしまった。私は、まだ心の中がモヤモヤした。家に帰って、自分に問いかけてみた。問いかけても、答えは出てこない。そのまま、じつじつと考え続けた。

それから、しばらくして、こんな出来事があった。私は、給食委員。毎日、給食がおわると、自分が食べた台をふき、床をはく。今週は、自分の当番だった。私は、自分の仕事を忘れてしまつていた。でも、忘れていた私の仕事を、同じ委員会の友達が、代わりにしてくれていた。

友達は、何も言わずさりげなく私の仕事をしてくれていた。それに気づいた私は、すぐに「ありがとう」を伝えようと思った。あの時と同じだ。消しゴムを拾ってくれた時に、感じた思いと、もう、あのモヤモヤした気持ちを繰り返したくない。伝えよう。自分の気持ちを。「ありがとう。」私は、とても気持ちがよかった。自分の代わりに、そっと仕事をしてくれた友達に、自分の気持ちを伝えることができたこと。とてもすっきりした気持ちになった。伝えてよかった。心からそう思えた。

お父さん・お母さん、私達のために、毎日働いてくれて「ありがとう。」見守り隊の地域のみなさん。登校する時、いつも旗をもって、見守ってくださってありがとうございます。そして、私の家の前に咲く睡蓮の花。毎日、その大きな花で、私を元気にさせてくれて「ありがとう。」私は、「ありがとう。」という、たった一言を伝えることができなくて、モヤモヤした気持ちになった。もう、あの気持ちを繰り返したくない。「ありがとう。」この言葉に、私の感謝の気持ちをこめ、私を支えてくれるすべての人に、素直に言葉で伝えていきたい。



「高杉晋作に学ぶ生き方」

本郷小学校 六年 磯川 雄大

「おもしろきこともなき世をおもしろく」この句は、高杉晋作という人物の句です。人はみな、人生をおもしろおかしく生きたいと願っていると思います。しかし、思い通りにいかないのが人生。その思い通りにいかない人生を、何とかおもしろく生きよう！この句は、高杉のそういういた生き方が込められている句だと考えるでしょう。

さでこの世を去りました。しかし、その激動の人生を高杉は、おもしろおかしく生きていたと、僕は思います。高杉晋作は、長州藩（現、山口県）出身の人物です。高杉は若くして、吉田松陰が開いた松下村塾や、江戸で一番の学府である昌平坂学問所などで勉学に励み、めきめきと頭角を現していきました。みなさんは、高杉晋作と聞いて、どんなイメージをもたれますか。

高杉晋作は、わずか二十九歳という若

高杉と言えば、攘夷派の先駆けとして、江戸品川のイギリス公使館を焼き討ちしたり、幕府との戦争では、自ら指揮を執ったりするなど過激なイメージをもたれる方も多いかと思えます。

でも、僕はおもったと違った見方もできるのではないかと思います。それは、高杉がつくった「奇兵隊」という部隊が関係しています。奇兵隊は、今まで組織された部隊とは大きく異なる性質をもった部隊でした。それは、身分に関係なく入隊できるということです。当時の部隊は、武士などの身分の高い人だけしか入隊できないという決りがありました。しかし、高杉は、その決りに疑問を抱きます。「国を想う気持ちは、武士も農民も皆同じ。それなのに入隊する人を身分で差別するのはおかしい。」と。

高杉は、今まで身分が低く、苦しめられてきた人々に声をかけ、奇兵隊を組織していきました。奇兵隊に入隊した人々は、自分達の手で国を救うことができる！といった喜びから懸命に戦いました。圧倒的に不利と思われた幕府との戦いに勝利できたのは、この奇兵隊の活躍なしには語れません。このようなことから僕は、高杉は、「世の中の矛盾に気づき、勇気をもって行動する力」に長けていた人物だと思えます。

さらに、高杉は「未来を見通す力」にも長けていた人物ではないか？と思えます。そのことがよく分かるエピソードをご紹介します。

高杉は二十三歳の頃、中国の上海へ渡り、清がアヘン戦争の敗北により、欧米の植民地となりつつあることを知りました。清国人がイギリス人に馬のように扱われているのを見た高杉は、「このままでは、日本が危ない。」と危機感を募らせ、大急ぎで帰国し、日本の未来について、同じ藩の人々に、「自分達の手で日本を変えていかなければならない。」と説いてまわったというエピソードがあります。

以上のことから、高杉晋作の生き方から学べることは、人生をおもしろく生きていくためには、ただ、毎日を普通に過すのではなく、自分の未来像をしっかりともち、勇気をもって行動していくことだと思えます。

先の見えない今の世だからこそ、高杉のようなしつかりと未来を見通し、勇気をもって行動できるような人が求められているのではないのでしょうか。

冒頭にお伝えした、「おもしろきこともなき世をおもしろく」の後には、このような句が続きます。

「すみなすものは心なりけり（そのよくな生きかたが出来るかどうかは本人の心がけ次第である。）」と。

たった一度きりの人生。だからこそ、おもしろおかしく生きなければならぬと思えます。僕も高杉晋作のように、これからの人生をおもしろく生きていくために、毎日を懸命に生きていきたいと思えます。



「世の中を明るくする言葉」

本郷小学校 六年 山本 優香

みなさんは、世界で一番美しいと言われている言葉をご存知ですか。それは、フランス語では「メルシ」と言い、韓国語では「カムサハムニダ」、英語なら「サンキュー」と言います。もう、みなさんはお分かりになりましたよね。そうです。世界で一番美しいと言われている言葉は、日本語でいう「ありがとう」なのです。

私は、この事実を知った時、とても嬉しい気持ちになりました。それは、世界には色々な国があり、言葉や文化は違えども、人と人がつながる上で大切にしていくことは同じだと思っただけです。

私は、人と人がつながる上で最も大切なことは、『相手を思いやる心』だと思います。

相手を思いやる心がみんなに広がっていけば、きっと世の中は明るくなっていくことでしょう。

では、世の中を明るくする言葉とは具体的にどんなものでしょうか。私の考えられている、世の中を明るくする言葉は「ありがとう」と「ごめんなさい」の二つです。

まずは、「ありがとう」という言葉について考えたことを述べます。私は、よく家で母の手伝いをします。

母は、手伝いが終わると決まって「いつも手伝ってくれてありがとう」と言ってくれます。私は、その言葉を聞くと、とても心が温かくなります。そして、「手伝って良かったな。もっと手伝いたいな。」という気持ちになります。また、私は「ありがとう」と言いたくなる瞬間があります。それは、友達から親切にされた時です。私は、よく風邪をこじらせて学校を休むことがあります。そんな時は、クラス友達が休みカードを書いて、もってきてくれました。そこには、「大丈夫？早く元気になって、また一緒に遊ぼうね。」などの温かい言葉がたくさん綴られています。その手紙を読んだ時、私はとても心が温かくなりました。と、同時に友達に対して、「ありがとう」という気持ちを伝えたい！という想いになりました。

翌日、学校に行くとき手紙を書いてくれた友達が口々に「大丈夫。元気になって良かったね。」と声をかけてくれました。私は嬉しくなって自然と「ありがとう」という言葉を口にしていました。

このように、「ありがとう」という言葉には、人も自分も心が温かくなるような力があると私は思います。

次に「ごめんなさい」という言葉について、考えたことを述べます。

みなさんは、「ごめんなさい」という言葉を聞くと、どんなイメージをもたれますか。多くの人が、あまり良くないというイメージをもたれるかも知れません。でも、私はこの言葉こそ、人と人がつながる上で、とても大切な言葉だと思っています。例えば、あなたが友達とケンカをしてしまった時、もしこの言葉が無かったらどうなるでしょう。きっと、あなたもその友達も心がモヤモヤしたままで、スッキリしないことだと思います。でも、素直に心を開いて「ごめんなさい」と謝り合えば、お互いの心がスッキリして、また仲良くなれると私は思います。

このように「ごめんなさい」という言葉には、自分も人も心がすっきりするような力があると思います。

今、日本と中国が尖閣諸島沖での事故をめぐって対立しています。この問題を解決するためには、お互いがきちんと話し合いをもち、悪い所は素直に認め、謝ることが大切だと思います。世界には、この「ごめんなさい」が言えなくて戦争になったり、対立を深めたりしている国がたくさんあります。そのような悲しい事が起こる前に、お互いがきちんと謝り、認め合うことが大切だと私は思います。



「あつたか言葉とあつたか態度」

大刀洗小学校 六年 佐藤 俊

ぼくたちが二年生のころ、集会で先生が、「みなさん、この学校で安心して、自信を持ってくらすために、あつたか言葉やあつたか態度のあふれる大刀洗小にしましょう。」と言われました。

しかし、その頃のぼくは、あつたか言葉やあつたか態度など、その意味をあまり理解していませんでした。当然、言葉に気をつけることなく行動して、言葉の暴力で人を傷つけていました。例えば、簡単に、「バカ」、「アホ」、「消えろ」などの言葉を使い、それを言った結果、ムシャクシャは消えるどころか、さらに言い返されて、ますますムシャクシャす

し合いをもち、悪い所は素直に認め、謝ることが大切だと思います。世界には、この「ごめんなさい」が言えなくて戦争になったり、対立を深めたりしている国がたくさんあります。そのような悲しい事が起こる前に、お互いがきちんと謝り、認め合うことが大切だと私は思います。

私のクラスは、毎朝、自分達で決めた合い言葉（最高の六年生になるための十三ヶ条）を暗唱しています。その中に、「いつもありがとうの気持ちを伝えます。」、「素直にごめんなさいと謝れます。」という項目があります。私は、この誓いの通り、「ありがとう」と「ごめんなさい」を大切にできる人になりたいです。

みなさんも、ぜひこの二つの言葉を大切にしてください。一人一人の心がけが、きっと世の中を明るくしていく力になると私は信じています。



るのでした。逆に、ぼくが人から、「消えろ」、「死ぬ」、「ウザい」などと言われると、ぼくは、とても悲しく、心は深く傷つきました。

だからぼくは、できるだけ人に優しく接することができるように、昼休みになるべく多くの人と遊ぶことを考えるようになりました。そして、自分から友達に声をかけようと思いました。だけど、実際にはなかなか声をかけられなかったり、声をかけても上手くいかなかったりでした。くり返しやっていくうちに、だんだんできるようになり、できた時は、「ぼくが優しく接すれば、友達も優しく接してくれる。」ということが分かるようになります。そう思うと、とてもうれしかったです。

三、四年生のころ、六年生から、下校中におもしろい話をしてもらったり、「後遊ぼうぜ。」と声をかけてもらったりしました。この六年生のあったか言葉やあったか態度は、すごくうれしくて、今でもその時の様子をよく覚えています。

そして、今年、ぼくが六年生！六年生になって、今度はぼくたちが下級生に優しく接していく番です。

入学式の前日、ぼくたちは仕事を分担し、受付から一年生を教室につれて行くことになりました。ぼくは、「がんばるぞ。一年生にやさしいお兄さんと思われろぞ。」と、はり切りしました。

優しく、くつ箱やランドセルを入れるところを教えました。一年生は、にっこりしてくれ、ぼくは、これからもたよりになる六年生のお兄さんになるぞと思えました。

次の日、一年生の教室の横を通ると、元気のいい一年生が、「おはよう。」と言ってくれ、ぼくも「おはよう、がんばりいよ。」と応え、いろいろな子に声をかけました。自分からあいさつをして、返してもらおうと自分もうれしくなり、がんばろうという気持ちになります。

学校では、その後、運動会・水泳などで、一年生のお世話をすることが多く、一年生と遊んだ思い出がたくさんできました。

気がつくと、ぼくの使っている言葉は、とげとげ言葉よりも、あったか言葉がふえ、自分の心もあつたかくなっていました。

二年生の時から、ずっと、あったか言葉やあったか態度について考えてきていなかったら、このような思い出はできなかったと思います。

今現在、自分の言葉や行動をふり返ってみると、下級生に対してはできていないところがあります。でも、あったか言葉の大切さは、十分分かっていて、これからも、だれに対しても、相手の心まであたたかなるような言葉や態度を考え、行動していきたいと思えます。



「平和な世界へ・・・」

大刀洗小学校 六年 岡嶋 真央

私達、大刀洗小学校の六年生は、先の十月二十日と二十一日の二日間、長崎に修学旅行に行ってきました。

長崎では、原爆資料館を訪ね、被爆者の下平さんのお話を聞き、爆心地公園で平和集会をしました。その後、フィールドワークで、如己堂、浦上天主堂、長崎医大旧門柱、山王神社の被爆大浦と鳥居を見て回りました。

私が長崎で学んだことを二言でいうと、「命の尊さ」です。原爆資料館で見た黒い写真、今でも忘れられません。ガラスの破片が散らばっている写真や、ぐにやりと溶けて曲がったガラスのびんの手ざわりも、原爆のすさまじい威力やおそろしさを思い知らせてくれました。

原爆で一瞬にしてふきとばされた家々や鳥居もショックでしたが、なにより、原爆による放射線で、今も病気で苦しんでいる人々がいるということはショックでした。

被爆された下平さんのお話は、さらに自分の想像をはるかにこえるほど、原爆のおそろしさを実感させるものでした。黒こげの母や姉をさがし出し、目の前で兄や妹を亡くした下平さんは、それでも、力強く生きてこられました。

何十回という手術のあい間にも、アメリカやヨーロッパに出かけ、自分の体験を話し、世界の平和のためにがんばっておられます。

皆さんは今、世界中で戦争がたくさん行われ、毎日、たくさんの方の命が失われていることを知っていますか。

日本で戦争が終わったのは、六十五年前ですが、日本で戦争が終わっても、世界では戦争は終わっていないのです。というより、新たな戦争が、アフリカで、中東で、始まってしまったのです。そして、世界のどこかでたくさんの方の銃の音が鳴りひびいて、泣いている人々がいるのです。たくさんの方の命がうばわれているのです。

現在、長崎や広島に落とされた原子爆弾の数千倍の威力をもった爆弾が、この地球上に二万五千発以上あります。この爆弾がこの地球で、二度と使われてはならないのです。

私たちが笑って友達や家族と過ごしている間にも、どこかでだれかが、「助けて！」「死にたくない！」ときげんいでいるかもしれません。

下平さんは、世界の国々で、長崎のことを伝え、平和を訴えておられます。私たちは、平和のために何をすればいい

いのでしょうか。

戦争で傷ついている人は、きっと平和な生活を送りたいと思っっているはずで、平和という夢を叶えるためには、どうすればいいのでしょうか。

みんなが協力して、みんなが笑顔になれるようにしなければなりません。平和にみえる日本にも、いじめや差別で傷ついている人たちがいます。この国から、人を傷つけるような言葉や態度を、まずなくすことが平和への第一歩だと思います。

私たちもけんかをします。知らずに友達のことを傷つけてしまっています。「ごめんね」というだけで、もやもやは終わ

ります。心はそれ以上傷つけられずむのです。たった一言で世界が変わるかもしれないのに、その一言がでないで、争いは起き、人の命をうばうところまで進んでいく気がします。

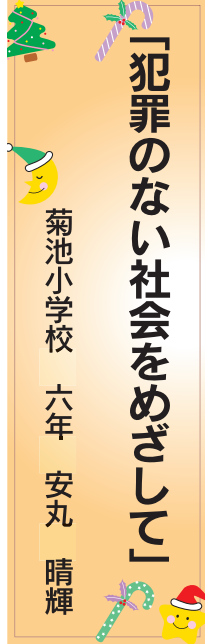
争いのない世界
戦争のない世界

これは、だれもが思っている願いです。私は、今まで「平和」という言葉を、あまり深く考えたことがありませんでした。でも、いざ考えてみると、とても意味深い言葉です。私は、この「平和」という言葉を忘れずに、世界中みんなが笑顔になれるように、自分ができることを実行していきたいと思っています。



「犯罪のない社会をめざして」

菊池小学校 六年 安丸 晴輝



みなさんは、最近、犯罪が多いと思いませんか。殺人、強盗、ひき逃げに暴力、虐待、薬物の密売など、最近のニュース

でよく耳にする言葉です。どの犯罪も、小さいことから大きな犯罪に発展しているのではないかと、僕は感じています。例えば、殺人や暴力は、ストレスや小さなけんかから始まります。また、強盗や薬物の密売は、欲望やストレス、及び借金から逃れたいという気持ちから生まれます。どの犯罪も、防ぐことができるは

ずなのに、起こってしまうというのは、とても悲しいことです。

実は、僕の家も、窃盗犯に入られたことがあります。それは、今年の一月二十六日のことでした。僕の目の前には、勝手口の窓ガラスが割られ、二階の寝室が荒らされているという現実が広がっていました。でも、僕にはどうすることもできませんでした。

月日が経ち、山口県のある警察署から、嬉しい一報が入りました。僕の家に入っ

た窃盗犯が逮捕されたというのです。警察の話によると、被疑者は、以前にも窃盗の容疑で逮捕されていたそうです。しかし、刑務所にいる途中に仲間をつくり、執行猶予中にもかかわらず、再び窃盗を繰り返したそうです。僕は、残念ながら被疑者と顔を合わせられなかったのですが、会うことができたなら、こう言いたいと思います。「どうして一度したことを持ち返してしまったのか。被害者の気持ちを考えなかつたのか。」と。

どの犯罪も、まず第一に、被害者がいるということを知ってほしいと思います。よくテレビで、「むしゃくしゃしたからなぐつた。」という言葉が聞きます。虐待の場合には、「これはしつけの一部だと思った。」と言います。さらに、ひき逃げの時は、「ひいたことに気づかなかつた。」と応えています。みなさん、おかしいと思いませんか。自分の身を守ることしか考えず、被害者の心に目が向いていないと感じませんか。

これは、数年前の出来事ですが、秋葉原で、無差別殺傷事件がありました。みなさんも、「存じだと思えます。動機は、「イライラしていた」というものだったのですが、僕は、被疑者に相談する相手がいなかったのではないかと思っています。相談者がいないといっても、もちろん犯罪に走ることは許されないのですが、とてもつらかつたのだと思います。

では、犯罪のない社会を、僕たちは、どのようにしてつくっていくべきなのでしょう

でしょうか。

一つは、人の相談にのってあげることではないでしょうか。これは、秋葉原の無差別殺傷事件からの教訓です。悩みを一人でかかえてしまうと、ストレスがたまりまます。ほくも、悩んでいる時にストレスを感じたことがあります。みなさんも、ストレスがたまり、いらいらした経験があると思います。このような時は、心が不安定で、様子がおかしいはずで、まわりの人の様子に気を配り、声をかけてあげることが大切ではないでしょうか。

二つ目は、被害者の身になって考えるということです。学校や日常生活でいえどといけないことを判断する力を身につけるといことです。担任の先生も、よくこのような話をされます。しかし、まだまだ心ない言葉を発したり、いやがらせをしたりする人がいるのが現実です。身近な生活の中の小さな善悪の判断が、犯罪防止につながるのではないのでしょうか。

犯罪をこの社会からなくす方法を二つ話しましたが、最も大切だといえるのは、やはり自分の意志です。僕は、日本中の人が、「犯罪を犯さない」という強い意志を持っている人間になってほしいと思います。自分の心が、行動に表れるものです。僕自身、してよいことと悪いことを判断する力をみがき、行動できる人間になりたいと思います。



「私の夢」

菊池小学校 六年 安丸 綾香

みなさん、これを見てください。これが何だか分かりますか。これは、私の夢です。私は、将来、デザイナーになりたいと思っています。今私は、自分の夢を、人に伝えるようになりました。そして、これまでとは自分自身が変わってきていることを感じています。

みなさんには、将来の夢がありますか。少し前の私は、まだ、自信を持って、自分の夢のことを話すことはできませんでした。友達が、将来の夢の話をしていると、「それもいいな」「あれもいいな」「でも自分には無理だな」などと、ぼんやり考えていました。そして、「別にあって決めてなくてもいいや。」と思っていました。

ある日、テレビを見ると、スケートの浅田真央選手のニュースが流れていました。浅田選手は、小さい頃からスケートを習っており、その技術の高さは、早くから注目されていました。練習がどんなに厳しく辛くてもスケートをやめたかと思つたことは一度もないそうです。そのわけは、『将来、オリンピックに出て金メダルをとる』という、明確な目標があったからだそうです。二年前、オリンピックに出場し、おしくも銀メダルという結果でした。浅田選手は、試合後の

インタビュで、悔しそうにしながらも、もう次の目標について語っていました。私は、そんな浅田選手を見ながら、「夢を持っている人は、心も強いんだな」と思いました。そして、「私の夢って何だろう。」と、少し真剣に考えるようになりました。

それから六年生になり、さらに友達の姿が私の夢をはつきりさせてくれました。私の周りの友達は、すでに自分の夢をちゃんと持っていました。Aさんは看護師。Bさんはテニスの選手です。Aさんは、人の役に立つ人になりたいと言つて、日頃から周りの友達に気配りをしています。Bさんは、テニスの練習をとっても熱心に行っています。どんなに辛くても逃げ出すことはありません。「絶対にテニスの選手になつてやる。」という強い気持ちで、練習の姿からも伝わってきます。そんな友達姿を見ていて、「私がしたいことは何だろう。得意なこと何だろう。」と、改めて自分自身のことを見つめてみました。

私は、絵を描いたり、物を作ったりすることが得意です。そして、描いたり作ったりするときに、アイデアがたくさん思い浮かびます。友達にも先生にも、「上手だね。」「アイデアがいいね。」と、

ほめてもらうこともあります。絵を描くことは、自分でも少し自信があります。これまでぼんやり考えていた『デザイナー』という夢が、この頃からはつきりと浮かび上がってきました。それからは、友達と夢について話すとき、「私の夢は、デザイナーになることだよ。」と、いえるようになりました。

このように、はつきりとした夢を持つようになつてから、私は、何をするにも気持ち前向きになりました。家で、暇なときには、デザイン画を描いています。読書をするときも想像力がふくらむと思います。本もできるだけ読むようにしています。雑誌などを見て、アイデアの参考にしたいと思っています。



「会いたい」

大刀洗中学校 一年 鐘江 未羽

みなさんは、身近な人が亡くなった時の悲しみを知っていますか。そして、その悲しみをどう受け止めていますか。

私は去年、私が生まれる前から父と母が親しくしていたおじさんが病気で亡くなるという現実に出会いました。おじさんはそれから十数年も家族ぐるみで仲良くさせていただいて、私にとつても大切な方でした。私はその事実をすぐに理解することはできませんでした。

数日後、そうぎのため学校を早退し、式場へ行きました。式場を初めて見た私

りもします。

将来の夢という目標ができてから、いろんなことにやる気が出てきたように思います。この主張大会にも、自分から進んで立候補しました。夢を持つことで、前向きに頑張れるようになった自分のことが好きです。浅田選手みたいに、小さい頃から努力をしても夢を実現することはたやすくはありません。でも、私も、自分で決めた「デザイナー」という夢に向かって、これからもいろんなことに前向きに挑戦し、いつか夢を実現させたいと思います。

は、少しの不安と大きな恐怖心でいっぱいでした。式が始まると、静かな部屋に悲しみの声がひびきました。怖くてたまりませんでした。その時私は、「夢であつてほしい。」と思いましたが、でもそれは、悲しい悲しい現実でした。式の終わりがころ、おじさんのひつぎにお花をそえました。顔を見ると、いつもより白く、少しほえんでいるようでした。涙が止まりませんでした。「もう、会うことは

できない。」と何度も思えば思うほど胸が苦しかったです。式が終わわり、お別れ

の時、私の前で泣いたことのない父が涙をポロポロ流して泣きました。私はそんな父を見て、人と人が別れる辛さと悲しさを感じました。

式が終わった次の日、父は、とても暗い暗い表情でした。全くと言っていい程、笑顔はありませんでした。その日の夜、弟が父にこんなことを言いました。「お父さん、暗い顔してたら、悲しい事ばかりになるよ。」私は、この言葉を聞いた時、あまりよく分からなかったけど、父には深く深く伝わっていました。

次の日、父は私と弟に、笑顔で「おはよう」と言ってくれました。あの時、私と弟は二人で喜び合いました。

今でも時々、おじさんの家を訪ねることがあります。家に行く度、私は、おじさんにいろんなことを話しかけます。話している時、ときどきですが、本当に会話をしているような気持ちになります。私はその時、心の中におじさんの存在を感じました。これからも、家へ行った時

は、中学生になったこと、中学校で頑張っていることを伝えたいと思います。そしてこれから私は、いつも笑顔で過ごしていこうと思います。それは、いつも優しくして明るかったおじさんが私に、いつも笑顔でいる事を願っていると思うからです。それと、残されたみんなが笑顔でいる事が、おじさんの幸せではないかと思っただけです。

会えないと分かっているけど、会いたいと何度か思います。亡くなってしまったおじさんの顔が見れないことも分かっているけどやっぱり、顔が見たいと思います。でも、いつまでもよくよくよせずに前を向いて、いつも笑顔で今を一生懸命、生きていこうと思います。

私は、今回の経験から、生きていくことのすばらしさを改めて考えることができました。同時に、笑顔は人を元気にしてくれることも学びました。みなさん、みなさんの命とみなさんの笑顔の大切さを、もう一度考えてみてはどうでしょうか。



「中2の親子関係」

大刀洗中学校 二年 中島みずき



私は最近、よく親から子どもへの虐待のニュースを見ることがあります。このニュースについてみなさんは、どう思っていますか。

私は、誰が見ても「ひどい」と思う二

た。

私はこのごろ、家で姉とケンカをしたときに、相手は年上なのに、「もう話しかけんで。」とか、「あっちに行つて。」など、他にもいろいろと口ごたえをしましました。このような事は、今まで何回もケンカをする度にあったことでした。私はこの事で親に、「あんたは、お姉ちゃんのことをどう思っているのね。あくまでもあんたは年下で、相手は年上よ。言い方を考えなさい。」と怒られました。

しかしその時私は、親に言われたことをほとんど聞いていませんでした。姉とケンカした所だったので、親にも注意されて、ただイライラしていて、親にまで、「最初に言ってきたのはあつちやし、私は別に悪くないやん。」とあたつてしま

いました。この他にも、親の言っていることを素直に受け入れずに、口ごたえをすることが何度かありました。しかし、この時に私が言い返したからといって、親は、次の日もそのつぎの日もニュースであった事件の様に、食事をとらせてくれなかったり、せまい部屋に閉じこめたりすることはありません。

私が最近読んだ本には、朝ごはんを毎日作らせたり、十日間も食事をとらせない。いつも地下室に閉じ込め、母親の言いつけどおりに何でもさせろ。それはほとんどエスカレートして、コンロの上で焼こうとしたり、アンモニアや、漂白剤を飲ませてひどい目に合わせていたという内容が書かれていました。それは、も

うその子を自分の子どもとは思っていないようなあつかいでした。それでもその子は大人になり、本当に信頼できる人に出会って、立ち直っていくという話です。

私は、この本や最近よく見るニュースで、親との関係や関わり方の深さを考えてみました。考えていくうちに、人と人との関係には、お互いが信頼し合うということが大事なのではないかと、改めて思うようになりました。そのためにも、お互いが相手の気持ちを知らうとすることが大切だということ。お互いが相手の気持ちを知らうとすることで、初めての信頼し合える関係になると思います。そのためにも、例えば親との意見のくい違いがあつたときには、まず親の言っていることをしっかり聞いて、親は自分に何を言いたいかを考えるようにしたいです。そして私も、自分の気持ちを、しっかりと言葉で伝えるようにすれば、少しでも親との関係は深くなると思います。

私はニュースや本を見て、とても悲しくなりましたが、その話題をきっかけに、自分の親との関係を考え直すことができました。これは親とだけでなく、これから出会う人たちとの関係にも同じことが言えると思います。これから相手とケンカしたりした時は、相手はどんなことを自分に言いたいかを考え、そして自分の気持ちをしっかりと伝えるようにしたいです。そして、親や家族だけでなく、周りの人たちと信頼関係を築いていきたいです。



「今を大切に」

大刀洗中学校 三年 平田 真優



今年の一月、私のおばさんが亡くなりました。死因はがんでした。多くの人が家族・親戚を失った経験をしていると思います。私にとっても初めての死ではありませんでした。でもおばさんの死は私の中で強く印象に残っています。それは、おばさんが自分の余命を告げられてからも笑顔で精いっぱい生き抜いたからです。

おばさんが病院に行つて検査をした時、余命一年と宣告されました。病名はスキルス胃がんでした。手術ができないほどの状態でもう進行を遅らせる治療しかできなくなっていました。

しかし、おばさんは笑顔で誰にも泣き事をいうこともなく自分が死んだあとどうすればいいかというのを伝えたり、子どもの将来のために貯金をしたり、自分のお葬式の準備をしたりと、自分よりも家族の心配をしながら生きていました。それは入院をしても変わりませんでした。物を食べても水を飲んでも吐きつづけたので、やせ衰えてしまいました。そのうえ、抗がん剤の投与で髪も抜け落ち、肌は黒くなり、お腹はふくれ以前の面影は感じられないほど激変していました。私達が会いに行った時は、もう血液も流れない状態になっていました。そんな姿で微笑むおばさんを見た時、その強さに涙

がこぼれそうになりました。そんな苦しく、つらい治療だったのに皆に笑顔を見せてくれました。おばさんの状態をずっと悲しんでいた義理のお母さんにも、「心配しなくていいよ。死んだお母さんの所に行きただけだから。」と言つて笑顔を見せていました。

ただ一度だけ意識が無くなる前の日だけは、帰ろうとする家族に、「今日は帰らないでおつて。」と言つたそうです。それが唯一言つた弱音であり、助からなるといわれてからずっと見せなかつた不安に耐えられないという姿でした。本当

は治療は苦しく、入院生活は寂しいものだったんだと思います。でも家族を不安にしているといけないという思いから、その寂しさ、苦しさは自分の中でとどめて、代わりに笑顔をつくり最後まで生き、そして死んでいきました。目の前で母を失つたいとこたちが泣いたのはその日だけでした。お通夜・お葬式では一切涙を見せずに手伝いをしていました。それは、自分の死によつて家族が悲しまないよう最後まで微笑んでいたおばさんの心が伝わっていたかのように思いました。こうして余命一年と宣告されても、おばさんは懸命に一年二ヶ月を生き抜いた

のでした。それがおばさんにとつての悔いのない生き方だったんだと思います。私はおばさんの死に出会つて考えました。私にこんな生き方ができるだろうか。突然、後一年しか生きられませんかといわれたら何を思うでしょう。きっと不安で逃げ出したくなると思います。そして、自分の人生が終わるのにやりたかつたことがやれなかつたということを後悔すると思います。それは、私が今悔いのない生き方をしているとは言えないからです。

今、私は当たり前のように生きています。しかし、それは当たり前ではありません。私は余命を宣告されていないだけで、明日死ぬかもしれない。何歳まで生きられるかという保障の無い中で、誰もが毎日を生きています。今までは生きるのが当たり前で、時間は沢山あると思つていました。でもおばさんの死を見て、人は生きていくことが幸せであり、その命が終わるときにその人の生き方が見えるのだと分かりました。そう思うと家族のことを考え、弱音を吐かずに生き抜いたおばさんの生き方は、立派だつたと思います。人の命には限りがあります。だからこそ、生きていく今を大事にしたいし、今を自分が納得できるようにしていきたいです。悔いのない生き方をすると

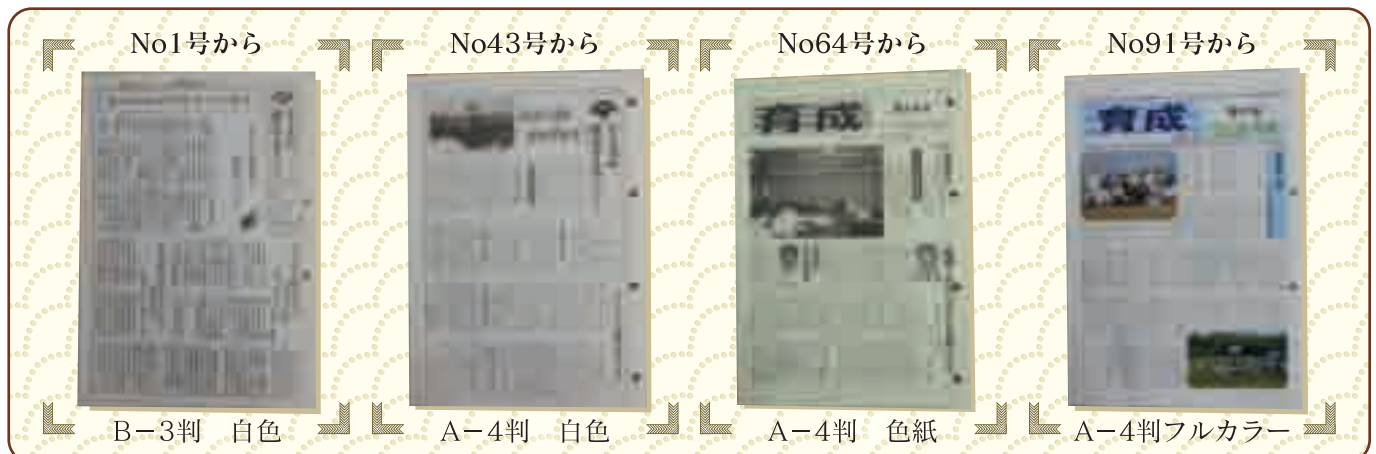
いうのは、ただだから生きるのではなく、しっかりと目標をもって生きることだと思ひます。おばさんの生き方を通して、目標に向かって悔いのないように一生懸命生きて



育成だより100号 広報委員の経緯

発行号	発行日	大堰校区	本郷校区	大刀洗校区	菊池校区	事務局
1	昭和62年7月1日	実藤 量平 池田日露支	田中 正人 後藤 悌次	山田 英敏 中原日出美	松尾 克正 大塚 福寿	なし
10	平成2年1月15日	実藤 量平 池田日露支	横溝 芳夫 後藤 悌次	山田 英敏 中原日出美	松尾 克正 原山 義康	なし
20	平成4年7月15日	実藤 量平 池田日露支	横溝 芳夫 平田 繁雄	山田 英敏 中原日出美	松尾 克正 山内 剛	なし
30	平成6年10月15日	平塚 弘俊 池田日露支	松本 哲雄 平田 繁雄	坂田 光成 中原日出美	田邊 俊恵 森山 和美	なし
40	平成8年11月1日	白井 正雄 池田日露支	松本 哲雄 平田 繁雄	井手 弘志 青木夕カ子	田邊 俊恵 古賀 政男	後藤 悌次
50	平成10年10月25日	白井 正雄 吉原ヒロ子	松本 哲雄 近藤美恵子	井手 弘志 黒岩 末義	田邊 俊恵 安丸 正弘	後藤 悌次
60	平成12年11月10日	白井 正雄 吉原ヒロ子	野瀬 実 平田眞由美	井手 弘志 筒井 潔	高松 耕作 安丸 正弘	中村 哲夫
70	平成14年12月27日	秋山 一郎 吉原ヒロ子	野瀬 実 平田眞由美	一木 茂治 筒井 潔	森山 梢 安丸 正弘	中村 哲夫
80	平成17年9月22日	富松 裕 吉原ヒロ子	野瀬 実 大野 愛里	結城 保隆 川原 久明	安丸 裕子 北島 俊弘	田中 正起
90	平成20年2月20日	実藤 俊彦 平田 美穂	高良 信児 大野 愛里	結城 保隆 平田 浩則	山田 聡 北島 俊弘	田中 正起
100	平成22年12月20日	野瀬 忠治 平田 美穂	大場 邦子 岩崎 耕市	結城 保隆	中島 誠 池田 貞美	田中 正起

育成だよりの経緯



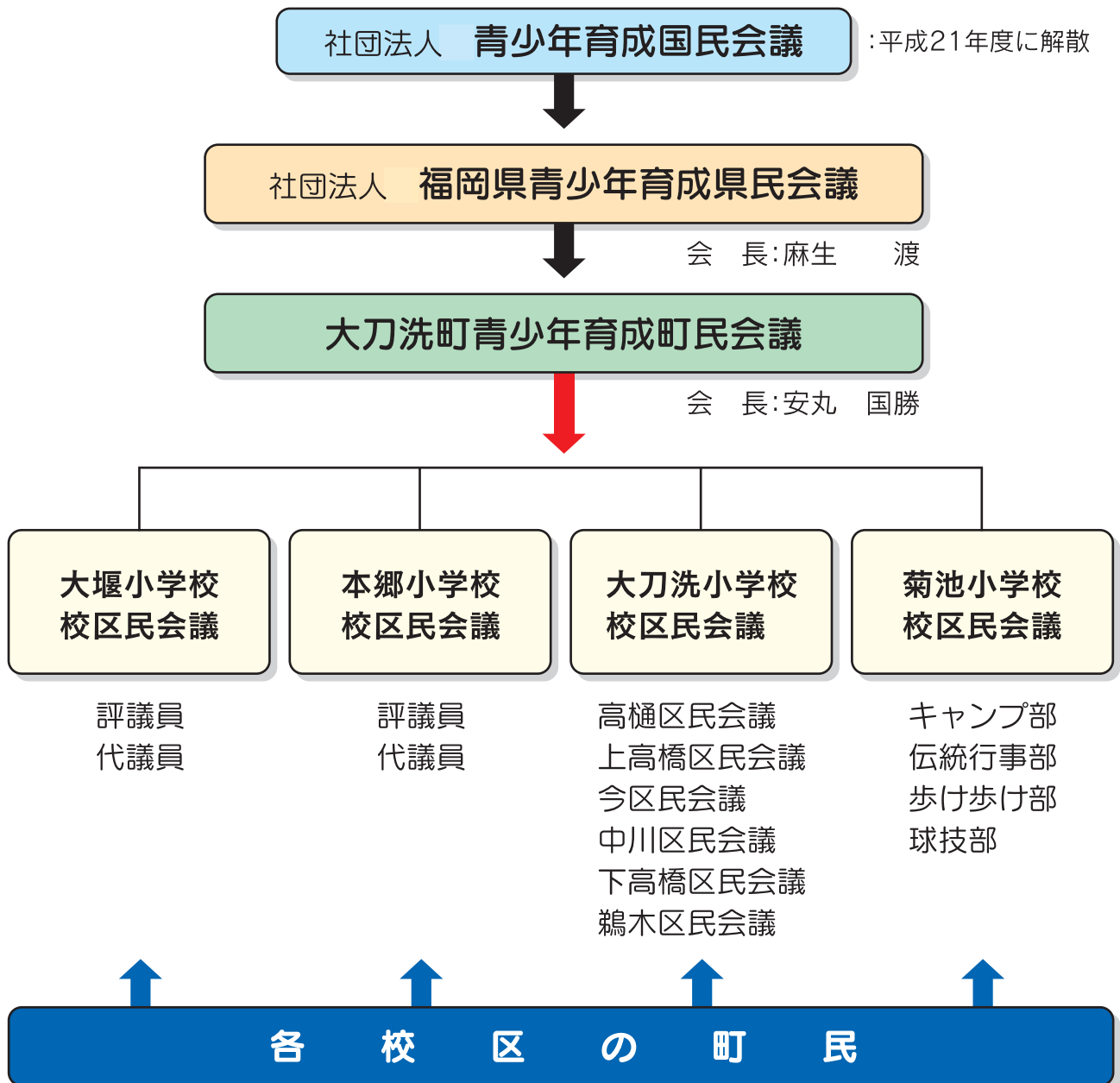
青少年育成町民会議について

青少年育成の取り組み経緯

青少年がのびのび健やかに成長することは、全ての大人の願いです。それを実現するためには、地域全体が一致協力して取り組んでいく必要があります。こうした地域ぐるみの活動を全国に広げるため、昭和41年5月、「伸びよう 伸ばそう 青少年」を合言葉に、青少年の健全育成と非行防止をめざしてスタートしたのが、青少年育成国民運動です。同時に、結成されたのが「青少年育成国民会議」です。

現在では、47の都道府県に青少年育成都道府県民会議が、約7割の市町村に市町村民会議が組織されています。

国民会議からの流れ



● 青少年育成の取り組み:大刀洗町 ●

青少年育成

青少年育成 国民会議 :平成21年度に解散
 ↓
 青少年育成 県民会議
 ↓
 青少年育成 市町村民会議

※大刀洗町青少年育成町民会議
 大堰校区民会議 ・本郷校区民会議
 大刀洗校区民会議・菊池校区民会議

中央公民館主催行事

①子ども料理教室 ②子どもチャレンジ教室 ③親子映画会
 (平成21年度から中止)

各校区の取り組み

:校区チャレンジ教室

※大堰アンビシャス広場 ※本郷アンビシャス広場
 ※大刀洗校区学校外活動 ※菊池チャレンジ教室

PTA

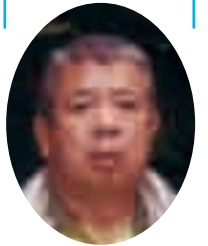
※大堰小学校 学級分会委員会 副学級分会委員会 健康委員会 広報委員会 地区委員会 父親委員会	※本郷小学校 学級分会委員会 保健給食委員会 広報委員会 校外補導委員会 父親委員会
※大刀洗小学校 成人教育委員会 保健給食委員会 広報委員会 校外補導委員会 経理委員会 父親委員会	※菊池小学校 成人教育委員会 保健給食委員会 広報委員会 地域活動委員会 厚生委員会 父親委員会

子ども会・子ども会育成会

大堰校区

育成だよりの思い出

矢野 義臣



「育成だより」100号の発行おめでとうござ

私は、平成十五年に育成だより編集委員を仰せつかりました

当時は、一回の育成だよりを発行するのに、原稿の依頼から構成などに

※大丸洗町青少年育成町民会議の総会関係の記事。

※子どもチャレンジキャンプ。

※各校区の夏祭り七十四号では、※成人式関係の記事。

※各校区の行事 など

平成八年に友人からの「育成会を手伝ってくれ」との声かけからでした。

平成十年に区長会・婦人会が主催されておりまし

また、ウォーキング大会や自作の凧での凧あげ

近年、家庭の教育力や地域の教育力の低下が言

子どもの健全育成の為組織が充実し、子ども達は、

最後に、「育成だより」が二百号、三百号とつづ

《育成だより編集委員会》

菊池校区	安丸 正弘
大堰校区	吉原ヒロ子
本郷校区	矢野 義臣
大丸洗校区	平田眞裕美
菊池校区	成富 博範
事務局	森山 梢
	中村 哲夫

大丸洗校区

育成だよりの思い出

中原 日出美



戦後民主主義の誤解で教育は重病になり、社会は荒廃した。

注意されたのに逆ギレして教師に暴力を振るう

育成運動の趣旨と活動状況を町民に知ってもら

代編集長に推選されたが、原稿集めと作り方に試

報道されたので近隣市町

から分けてくれ、と要請があつたときはおれしか

因は、親が教師の悪口を日常的に言うのが子ども

失なわれているようだ。先生を尊敬していかないか

昔から、地域の子どもは地域で育てるとい

行為の激増は、長年培われてきた社会の不文律が

崩壊したのも大きな原因である。

この役割を果たせるのは、全国にある青少年健全育

豊かな心を持った人間に育てたいと願う親の気

つけ方に古いも新しいもない。

戻してやるのが健全育成の使命だろう。

本郷校区

育成だよりの思い

松本 哲雄



大刀洗町の青少年育成
町民会議は昭和六十年に
発足、その後、昭和六十
二年七月に「大刀洗町健
全育成だより」が創刊され、
以来二十三年間休むこと
なくこの町民会議の機関
紙として発行され、継続
は力なりと言いますが、
今回百号を迎えられたこと、
心からお祝い申し上げます。

私は、平成五年の二十
五号から五十八号までの
七年間編集に携わり、育
成会の活動の周知や広報
に取り組みさせていただ
きました。

その後、本郷校区の育
成会の活動にも携わらせ
ていただき、本郷チャレ
ンジクラブ（現在は本郷
アンビジャス広場）や大
刀洗町のチャレンジ教室、
チャレンジキャンプ等の
お手伝いを、一時疎遠な
時期もありましたが、微
力ながら現在も続けさせ
ていただいています。

この七年間をふりかえ
ると、機関紙として活動
状況の広報だけでは毎年

の行事紹介になってマン
ネリ化することから、常
に地域が青少年の育成に
目を向けてくれるような
企画を考え、五十号から
タイトルを変えてイメー
ジを一新し、少しでも興
味を持って読んでくれる
ようにというところで紙面
づくりをしてきたつもり
ですが、限られた時間の
なかでの作業でなかなか
満足のいく情報を提供で
きず、七年を過ごしてき
たようです。

「青少年がのびのび健
やかに成長することは、
全ての大人の願い」と。
これを表現するためには、
地域全体が一致協力して
取り組んでいくことが必
要で、こうした地域ぐる
みの活動を全国に広げる
ため、昭和四十一年、《伸
びよう 伸ばそう 青少年》
を合い言葉に、青少年の
健全育成と非行防止をめ
ざしてスタートしたのが
青少年育成国民運動で、
同時に結成されたのが青
少年育成国民会議です。

四十七の都道府県や市町
村に市町村民会議が、青
少年の健全やかな成長を
図るための多様な活動を展
開することを趣旨として
組織され、幅広い団体・
機関や人々の協力支援を
得て、福岡県青少年育成
県民会議が設立され、大
刀洗町では「大刀洗町青
少年健全育成町民会議」
と小学校の校区単位で「校
区民会議」が組織されて
います。（町民会議は、
ここから選任された運営
委員各5名と小・中学校
代表員構成されています。）

町民会議は、主に青少
年育成の指導者の研修や
チャレンジキャンプ・青
少年の主張大会等の活動
を行い、各小学校校区の
育成会は、その地域にあ
った独自の活動を行って
います。今後もアンビ
ジャス広場等、他のボラ
ンティアグループと連携
をして活動の環を拡げて
行けたらと思います。

青少年健全育成会は、
二十年前の事で記憶が定
かではないですが、六十
一年に菊池校区民会議と
は何の事か判らず疑心暗
鬼でした。青少年健全育
成と判り納得しました。
昭和六十一年三月十日菊
池校区民会議の規約が出
来ました。目的は、青少
年問題の重要性。健全育
成町民会議の施策に呼応し、
菊池校区における青少年
の健全な育成を図ること
を目的とする。

活動は、①地域をあげて、
青少年の健全育成の推進
の雰囲気作り、②青少年
がその誇りと責任につい
て自覚を高める、③健全
な青少年団体及びグルー
プ活動の育成。すべての
青少年が、これに参加す
る事の奨励。④家庭・学校・
地域等の密接な連携。各
機関団体との連絡調整。
⑤健全な家庭作りを推進。
⑥青少年非行化防止早期
発見。地域環境の浄化を
図る。私達は、以上の内

菊池校区

二十年前の思い

原山 義康



容に基づき会議の結果、
六十一年度の校区民会議
の行事を、各区対抗で開
催する事になりました。

「環境部」は、花いつ
ぱい運動・学校の草取り・
遊具の整備。「運動会部」
は、綱引き・パン食い競
争・二人三脚等。「歩け
歩け部」は、団体での行動・
交通ルール・宝探し・そ
の他。「球技部」は、ソ
フトボール・ドッジボール・
ミニバスケット等。私は
球技部で、早速、ルール
作りをした事が記憶に残
っています。子ども達を
育成するには、スポーツ
活動を通して強い身体・
気力・体力の向上を図り、
健全な心身を鍛え、素直
で逞しい心身をもった青
少年を育成する。スポー
ツは、お互い助け合い、
団結力が生まれ、その上、
仲間同士の絆が生まれる。
青少年健全育成は、町々
らう。当区の今後の青少
年育成問題を区民が総意

を結果して考え、よく話
しあって適切な次への道
を求めるとには、意義の
深い催しだと確信いたし
ます。

健康・挨拶・遊び・地
域交流を深め、温かい人
間性を養う。北鶴木は、
青壮年部が、区を上げて
左義長（どんどん焼き）や、
お祭り、大人や子ども
のお御輿、売店も並び盛大
に行っています。地域を
盛り上げ連帯感を深め、
活性化していただいでい
ます。

子どもさん達は、我が
古里の思い出をいつまで
も思い出して下さい。私
も微力ながら子ども達に
相撲を教えたり、安全に
通学出来るように見守り
隊をやったりしています。

毎回、育成だよりを見
ますと、子どもさんの事
が一目瞭然に判ります。
カラーで内容も充実し、
楽しみにしています。



中学三年生の担任にあって、もっともてごわいのが、就きたい職業ややりたいことを聞いても「わからない」とか「ない」という言葉を返す生徒です。「だったら勉強しなさい。やりたいことが見つかったとき一番君を支えてくれるのは君自身の学力だよ。」と答えることにしていますが、「そうか」と気づいて勉強に励む生徒はめったにいません。

ところが同じようなアドバイスでも、いつもと違った場面や立場の違う人が語ると、心に響くことがあるようです。そのようなコミュニケーションのことを「ななめの関係」と言います。親や教師のような上下の関係ではなく、友達といった横の関係でもない。何の利害関係のない地域のおばちゃん・おじちゃんから社会の大切なことを教わるのです。そんな機会となるのが三十以上の地域の事業所に



私が「海の星保育園」の園長に就任して六年目です。保育指針の改定がなされ、幼保一体化の問題を含め、保育園も新システムに向けてにわかに騒々しくなってきた感があります。しかし十年前の介護保険制度導入による、高齢化福祉のかなり乱暴な変革の曲折を、児童福



今村カトリック教会で、七・五・三式

社の世界では繰り返してほしくないという思いがあります。

当時〇歳児だった子どもたちも今はたくましい年長児。歩くこともできなかった子どもたちが、今では走り、跳び箱を跳び、逆上がりをしたりブリッジをしたり、歌をうたい、文字を書く。

心も身体も大きく成長し、小学校へ進級する準備を整えているのです。そして、当時年長組だった子どもたちは、今はもう小学校の五年生。元気あふれる小学生の歌声が校庭から毎日響いています。

海の星保育園は、デイサービスセンターや老人ホーム、グループホームと同じ敷地の中にあります。更に今村カトリック教会も隣にあります。この恵まれた環境の中で、世代間や文化の違いを学び、やさしくする、助け合う、がまんする、ごめんなさい、ありがとうが言える、そんな子どもたちに育っています。保育園が単に卒園までの関わりに終始することなく、小・中・高・大学そして社会人やが高齢者となっても、その後の連携と人としての関わりを、常に温め深めたものです。ちなみに海の星（清心）保育園の開設は昭和四年で当時の卒園生は、八十歳を超えているのですから。



そうめん流し



岩屋キャンプ場にて

今年初めて外のキャンプ場に行きました。何でも初めての体験です。ハラハラの岩登り、冷たい中での川遊び、山の中での肝だめし、真夜中のかぶと虫とり。体全部で自然のすごさを感じ取れたキャンプでした。この岩の下の網は、どうしても岩登りをさせたい！との思いで考えた、お父さん達(ダテイクラブ)の工夫です。

自然体験・キャンプ

大塚マンベロキャンプだより



平和を祈って千羽鶴を!

みんな歩いて大刀洗平和記念館、レトロ館へ行きました。平和記念館では、おり紙サークルの提案で「世界平和」を願う子ども達がおった千羽鶴を飾っていただきました。昼食は、満開で賑わっていたコスモス園でした。

今年初めての企画・遠足



超スリルな岩登り



満開のコスモス園にて



4年~6年の14名です

我がが一番！通学合宿
去年までは二泊三日の通学合宿でしたが、今年は一週間に挑戦しました。四年生から六年生の十四名が参加しました。食事の準備、洗濯、地域の方にお風呂を借りる「もらい湯」。班のみんなで協力しないとこなせません。誰に甘えることもできないのです。しかし、子ども達は楽しそうにやっています。「あと一週間続きたい！」と言う



みんなで宿題



料理も自分達で作ります!

子もいました。ところが、終了後の感想文を読んでみると、「お母さんに会いたかった」「自分のわがままさがわかった。」「お母さんが毎日やってくれる家事はすごいんだなあ。」「もらい湯は、ドキドキしたけど楽しかった。」「いろいろな思い出が書いてありました。みんな「やっぱり我がが一番いいね。」と思えた大事な一週間でした。

今年も、三つのサークルがドリウム祭りに参加しました。ステージでは、リズムサークルがオカリナ演奏。いい音を出すのは結構難しいです。ポランティアさん達と長い竹太鼓を息を合わせて叩きました。ソーラン節サークルも、毎年楽しみに見に来て頂く地域の方のために一生懸命踊りました。外では、今年で三回目の将棋サークルのテントが賑わっていました。四歳の男の子から七十代の御老人まで、いろいろな方がいろんな人と対戦をされました。「お願いします。」「からはじまり、「まいりました。」で終わる。和やかな時が流れていたテントでした。

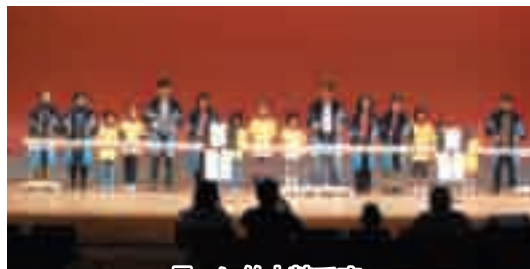
ドリウム祭りに参加



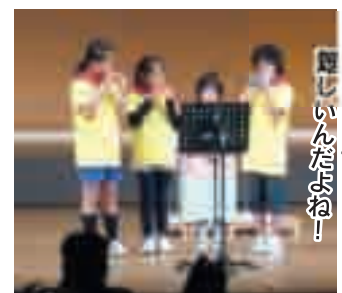
大人も子どもも真剣勝負!



踊った後のいい笑顔!



長〜い竹太鼓です



オカリナって
楽しいんだよね!

間もなく開設より1年!!

本郷アンビジャス広場

本郷アンビジャス

広場の活動

花等 順子

本郷アンビジャス広場は、本郷チャレンジクラブを衣替えして本年度発足しました。

毎月第2・4火曜日と第1・3土曜日と毎週木曜日に開いています。

平日は、学校からふれあいセンターに来て宿題をして、自由に遊んでいます。

8月26日(木) 「高速道路料金所見学」

ボランティアの白水さんの案内で、小郡インターの料金所を見学に行きました。

一日の通行台数やETCのシステム等詳しく教えていただきました。

9月4日(土) 「本郷ふれあいまつり」

開所式で、菊池学童クラブの皆さんが見事なけん玉のパフォーマンスを下さったのに刺激を受けて始めたけん玉でしたが、子どもたちの上達は目覚しく、急ぎよふれあいまつりに出場する事になりました。

自分達であいさつも演技構成も考えました。
けん玉をしない子ども達はステージの



① 大刀洗飛行場についての学習
そこで地域の人にも声をかけて平和学習をしました。

袖で東さんのギターを伴奏に「もしもしかめよ」を歌い、ステージでは「もしかめ」（けん玉の大皿と中皿で交互に受ける）を歌に合わせて動きをつけて披露し、大きな拍手をいただきました
11月6日(土) 「平和学習」

太平洋戦争が終結して65年。大刀洗飛行場や大刀洗空襲を知る人も少なくなってきました。

② 戦争当時6年生だった安丸しのぶさんの体験談

③ ナレーションサークル風のみなさんによる「シイの木はよみがえった」の朗読
戦争の悲惨さ、平和のありがたさを実感しました。

12月4日(土) 「焼酎工場(研醸)見学」

ふれあいセンターから西栄田の焼酎工場まで歩いて行きました。

工場には大きなタンクがいくつもあり、年代物の焼酎や色々な種類を造ってあってびっくりしました。
帰りに大堰神社に行つて五庄屋や床島堰の話聞きました。

④ その他の活動
「アンビカフェ」時々アンビカフェを開きます。

緑茶の入れ方出し方を教わり、お客さんやボランティアの方、お迎えのお母さんに飲んでいただきます。

子ども達にも保護者にも大好評です。「卓球」 第3土曜日はボランティアの太田さんの指導による卓球教室です。時々中学生が来てくれて教えてくれます。

他にも7月に「人権学習」、8月には毎年人気の「陶芸教室」、10月には6泊7日の「ふれあい通学合宿」をおこないました。

また、平日にはフリーテニスや風船遊びなどもしています。

子ども達はいつも元気いっぱいです。よく学びよく遊んで、社会性を身につけた子に育つてほしいと願っています。

大刀洗小学校区学校外活動
(チャレンジ教室)
 棚町 直人

七月三日、大刀洗小学校体育館にて、開講式及びゲーム遊びが始まりました。

毎月一回の活動を行い、これまでに、戦争の語り、つり大会、グラウンドゴルフ、ふれあいハイキング、わら細工など、地域の方や大刀洗町教育委員会地域活動指導員さんの支援・指導を受け活動しています。



12月実施「わら細工」



11月実施「ふれあいハイキング」



通安全協会の方々のご協力もあり、安全に楽しくハイキングが出来ました。今後も子ども達がいろいろなことにチャレンジし、地域の多くの人の支援・指導を受けながら、地域での仲間づくりを行い、子どもが自ら考え、主体的に判断し行動できる力を身につけることを目指します。

菊池チャレンジ教室
 運営委員長 森 一雄

菊池チャレンジ教室は、

毎年次の四つのクラブで活動しています。各クラブの特徴は、

①なんでも体験クラブ

料理・工作・登山にチャレンジしたり、佐賀県立宇宙科学館や吉野ヶ里歴史公園などに行ったりしています。

②手作り工作クラブ

絵画教室・工作・料理教室・登山にチャレンジしたり、アイススケートなどを行ったりしています。

③アウトドアクラブ

登山(古処山・わいた山)・潮干狩り・キャンプ・海水浴・工作・アイススケートなどにチャレンジしています。

④囲碁将棋

囲碁や将棋にチャレンジしますが、今年も希望者が少なく、指導者と一対一でチャレンジしています。

この他に、全体行事として、グラウンドゴルフにチャレンジします。毎年、開講式は、五庄



日本一の石段3,333段に挑戦 (アウトドアクラブ)



基山にて草スキー (手作り工作クラブ)

屋太鼓の演奏で始まり、閉講式は、ビンゴゲームで終わります。今年も、残り少なくなりましたが、みんな元気にチャレンジしていきます。

親子で楽しむ〇〇巡り 21 「九州鉄道記念館」

企画・広報担当 下田 昌法



九州鉄道記念館は、二〇〇三年八月に、九州鉄道発祥の地である門司港レトロ地区（ＪＲ門司港駅の隣）に誕生しました。

力・造形美を感じることが出来ます。そのうちの三両は車内見学ができ、懐かしい車内はノスタルジックな気分を演出してくれます。次に、近代化産業遺産にも認定されている赤煉瓦造りの本館には、貴重な九州の鉄道文化遺産が展示されています。また、体験型の設備として、実際に運転疑似体験が出来る運転シミュレーターや九州の代表的な列車をジオラマと映像・ナレーションで紹介する大迫力の鉄道パノラマがあります。九州の鉄道の歩みを見て、

触れて感じる事ができる本館です。そして、お子様に大人気のミニ鉄道公園では、ＪＲ九州の特急列車「かもめ」や「ゆふいんの森号」などのミニ列車に乗って、

に本物の鉄道の魅力を伝えていきたいと考えております。

信号機が備わった本格的な線路を運転体験していただけます。休日になると、小さいお子様連れのファミリーで大変賑わいます。その他にも、毎週末に子ども向け工作教室を実施しています。また、夏休みや十月の鉄道の日イベントなども随時開催しており、幅広い層のお客さまに楽しんで頂いています。

①九州の鉄道文化遺産の保存・公開 ②九州鉄道の歴史を後世に伝える。 ③門司港レトロ地区の観光振興への貢献、この三つをコンセプトに建てられた館内は、大きく三つのエリアにわかれています。

まず、屋外にある車両展示場には九州で活躍した鉄道車両が八両展示されており、実物車両の大きさや迫

九州鉄道記念館では、貴重な鉄道文化遺産の展示や一年間のさまざまなイベントを通して、鉄道ファンをはじめ、その他多くの方々



SL(C-591)



ミニ列車



運転シュミレーター



鉄道パノラマ

九州鉄道記念館

住所 〒801-0833 北九州市門司区清滝2-3-29
TEL 093-322-1006
FAX 093-332-7233
http://www.k-rhm.jp
mail k-tetsudo@k-rhm.jp

あてげんの がまだしもん 「菊池ランボーズ」 篠原 孝仁

僕は、菊池ランボーズで、仲間と一緒に練習を頑張っています。ソフトボールを通して、僕は、礼儀・あいさつ・声出しの大切さを学びました。まだまだな所もあるけど、仲間と一緒に審判の終わりの合図まで、あきらめず、優勝目指して頑張ります。優勝旗を持って帰ってくるぞ。



編集後記

青少年がのびのび健康やかに成長するためには、地域全体が一致協力して取り組んでいく事を目的に、大刀洗町青少年育成町民会議が、昭和六十年に発足された。育成だよりの第一号が昭和六十二年七月に発刊され、今回、第一〇〇号が発刊されます。これまでの二十三年間の活動が続いているのは、地域の方々や関係者の協力・行動・努力の賜物であります。

一〇〇号が発刊されることに感謝申しあげ、今後も大刀洗町の青少年が健やかに成長していくことに、町民が一致して協力頂きます事を祈念致します。



(誠)

毎月第3日曜日 家庭の日



家庭の日
(毎月第3日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしよう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家庭を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

【育成だより編集委員長】
大刀洗校区 結城 保隆

【編集委員】
大堰校区 野瀬 忠治

本郷校区 平田 美穂

菊池校区 大場 邦子

事務局 田中 正起